

---

◇熊谷隆一君

○議長（森元淑雄君） 次に、1番、熊谷隆一君の一般質問を許可いたします。熊谷隆一君、登壇願います。

（1番 熊谷隆一君 登壇）

○1番（熊谷隆一君） 通告に基づきまして一般質問をいたします。

質問事項は、真昼山など町の東側にそびえる山脈への登山客に関連する事項であります。

町では、これまで湧水を観光の目玉として各種の関連した事業を行ってきましたが、そのことに加えまして、現在は七滝山や真昼山など町の東側にそびえる奥羽山脈への登山客を誘致する新たな取組を、秋田県の協力を得ながら進められております。美郷中の生徒が真昼登山をした様子が広報美郷に紹介されておりました。また、私たちが小学生の頃に真昼登山をしたときのことを思い出しますと、頂上が見えてからの登りのきつさや、登り終えてからの昼食のおいしさ、そして頂上から見た眼下の自分たちが住んでいるところの眺望のすばらしさに感動したことを今でも覚えております。

登山道入り口に位置する大坂集落の住民からは、登山客が大分増えてきたようだという話を伺いました。そして、登山道の入り口を聞かれることがよくあるようになったことや、大曲方面から来た登山客が、みずほの里ロードを左折して、元本堂の方面に行って、元の斉藤商店、地元では典蔵みせと言っておりましたけれども、そこから右折して登山道に向かう人が多くいるということのようです。カーナビの案内がそのように指示しているのかは分かりませんが、今後登山客が増加することが予想されておりますので、現在のところのおおよその登山客数と、それからもっと分かりやすい登山道入り口等の案内看板の設置等についてどのように考えているのかということについてお伺いいたします。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

現在、町では「美郷町観光振興計画」に基づき、「地域資源とニューツーリズムのネットワーク化」の取組として、真昼山をはじめとする山岳フィールドの整備について、昨年度より計画的に進めているところです。

主な整備内容ですが、真昼山については、議員ご説明のとおり、県との連携のもと、3つの登山口にそれぞれ大型案内看板を設置するとともに、各登山道に誘導標柱を26か所設置しております。七滝山については、誘導標柱を3か所、休憩ベンチを2か所に設置したほか、急傾斜地への

階段設置を行っております。女神山については、今年度新たに「土手森登山道」の整備を行っており、真昼山、七滝山と合わせて、合計6コースの登山道と6か所の登山口が整備されたこととなります。

こうした計画的な山岳フィールドの整備に加え、コロナ禍によるアウトドア志向の高まりもあって、美郷町を訪れる登山客は徐々に増えているものと認識しておりますが、ご質問のありました登山客の入山者数については、現在のところ把握する手段がなく、実態把握が困難な状況にあります。

しかし、今年度の取組として、全ての登山口に登山届用のポストを設置しましたので、今後はこの登山届用のポストである程度入山者数の把握が可能となります。来年度から把握してまいりたいと考えております。

次に、登山口への案内看板についてですが、真昼山登山口に誘導する案内看板については、現在、県道大曲田沢湖線から一丈木公園に向かう丁字路付近に2か所、一丈木公園からみずほの里ロードへ向かう大坂集落内に2か所、みずほの里ロード上にある大坂集落の十字路付近に5か所、善知鳥児童会館付近に2か所、吐出集落の十字路付近に1か所及び大型看板が1か所と、主要道路を基本として合計13か所の案内看板を整備しております。

一定程度、案内看板は整備しているものと認識しておりますが、議員ご指摘のように地区住民にお尋ねの方が一定程度いらっしゃるにつきましては、それは案内看板の視認性に課題があるのかもしれないと存じます。

今後、山岳フィールドの整備やアウトドア志向の高まりなどにより、さらに登山客が増加することも予想されますので、改めて観光客目線に立って案内看板の視認性などの検証を行い、必要があれば適切に対応をしてまいりたいと存じます。

なお、地区住民におかれましては、今後も観光客から道を尋ねられることがあるものと存じますが、これまでと同様にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上です。

○議長（森元淑雄君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで1番、熊谷隆一君の一般質問を終わります。